

く、眼精疲労は作業当事者の嗜好にある程度依存するということが示唆された。

※下記学会にて研究成果を発表

①日本歯科大学歯学大会：カービング・テクニクを短期間で効率良く習得することが出来る自習教材の開発  
②第25回日本歯科医学教育学会：歯型彫刻作品に対する評価方法の検討③84<sup>th</sup> IADR：Educational effect of a new self-learning method for tooth-carving skills④第14回日本歯科色彩学会：彫刻用ワックスの色調による眼調節機能変化について

## 自己学習シミュレーション・プログラムを用いた効果的学習指導方法の研究

山田 隆文（歯科衛生士学科）

### 1. 補助事業の取組状況

広範な歯科医学知識や技術を、同時にすべての学生に平等に習得させることは非常に困難であるため、本事業の目的は、学生が、講義時間以外に、講義や実習の内容をいつでも予習・復習ができる環境を整えることにある。

古い教育環境では、講義された内容はその場限りであり、聞き逃した情報は消失する。

板書、プリント、スライドなどによる生の講義形態を、徐々にPowerPoint・Keynote等のプレゼンテーション形態、教員による解説という形に置き換え、デジタル化することで半永久的な蓄積が可能となる。

ただし、イーラーニングでは、サーバー構築・維持、コンテンツ原稿の準備が、非常に煩雑であり、膨大な経費と時間、教員の過重な負担が生じるという問題点がある。

そのため、当面は、安価で、構築のしやすい、一般的なインターネット環境を利用して、htmlレベルでの構築をすすめている。

最終形態としては、自己学習シミュレーション・プログラムという形（cgi等を利用してイーラーニングと同様に双方向の通信が可能となる）として、イントラネットとしての環境構築（当面は著作権等の問題があり学内でのみの閲覧とする）を目指している。

### 2. 補助事業の成果

平成18年度は

#### ① ハード面

資料収集に必要なデジタル録画機材、講義環境を整えるためのプレゼンテーション機を、さらに講義室の一部に追加・構築した。

これにより、学生講義のためのマルチメディア環境の一部が整った。

ほとんどの科目については講義内容のデジタル化がほぼ終了しており、講義室では、スライドプロジェクター中心から、デジタル環境（PowerPoint・Keynote等でのプレゼンテーション）への移行が完了している。

学生の公開のためのサーバーの構築に着手した。

#### ② ソフト面

学内FD（ファカルティ・ディベロップメント）を利用し、e-ラーニング化された講義・実習のデモンストレーションなど、全教員に対するモチベーションの向上、著作権等の取り扱い等について、全教員の共通理解を得る努力をすすめている。

具体的には、講義のレジメには膨大な資料があるが、

・学生の予習・復習環境を整えていく必要性。

・特に、最終目標である国家試験対策に向けてのデータの蓄積を開始した。

## 歯科衛生士養成課程における ホワイトニング実体験教育

金子 潤（歯科衛生士学科）

### 1. 補助事業の取組状況

歯科衛生士養成課程においてホワイトニング、インプラントなど近年社会的ニーズが高まりつつある先進歯科医療を教育内容に導入することは必要不可欠となっている。とくにホワイトニングは、歯科衛生士が専門知識を生かして主体性を持って取り組める分野と考えられる。そこで本補助事業では歯科衛生士養成課程にホワイトニング実体験教育を導入することによって、より専門性の高い知識と技術を兼ね備えた歯科衛生士を養成する試みを行なう。

平成18年度は、歯科衛生士学科2年生の臨床実習において、7班編成ですべての学生に歯科漂白ゼミを開講後、希望者34名に対してホワイトニング実習を行なった。まず、各自の歯列の印象採得によりカスタムトレーを作製、一定期間ホームホワイトニングを行なった。漂白前後の測色およびシェードガイドによる視感比色にて歯の色彩変化を記録し、ホワイトニングの効果を体験させた。同時に歯科漂白の知識および施術のテクニック、患者へのインフォームドコンセント、メンテナンスの方法なども習得させた。実習終了後にアンケートにて教育効果の確認を行なった。

### 2. 補助事業の成果

平成18年度における本補助事業による成果は以下のとおりである。

1) 歯科漂白ゼミの開講により、学生が最新のトピック